

「国際交流推進委員会」

1. 構成員

1) 委員

委員長：福井小紀子（東京科学大学大学院）

委員：池田真理（東京大学大学院）、落合亮太（筑波大学）、菅野雄介（東京科学大学大学院）、グレッジ美鈴（名桜大学大学院）、酒井啓子（畿央大学）、寺本千恵（広島大学大学院）、長山豊（金沢医科大学）、古澤亜矢子（日本福祉大学）、森木友紀（千里金蘭大学）

2. 趣旨

本委員会の趣旨は、関連する国際組織と連携を取りながら、日本国内の看護系大学のグローバル化を促進・支援することである。具体的な活動目標は以下である。

- 1) 看護高等教育における国際活動・国際交流を積極的に推進する。
- 2) East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) の Executive Committee (EC) に参加し、連携を促進する。現在、EAFONS の代表が池田委員であるため、EAFONS の事務局機能も委員が担っている。
- 3) 看護系大学における国際的な教育・研究活動を推進・支援する。

3. 活動経過

- 1) 今年度の委員会は、計 8 回開催され、委員会趣旨に沿った活動が実施された。

【第 1 回委員会】

日時：2025 年 5 月 28 日 17 時 30 分～19 時（Zoom 開催）

内容：2025 年度事業活動計画および予算の確認を行った。また、日本看護科学学会（JANS）交流集会の企画内容や、2026 年 2 月開催予定の研修セミナー案について検討を開始した。

【第 2 回委員会】

日時：2025 年 6 月 24 日 17 時 30 分～19 時（Zoom 開催）

内容：JANS 交流集会の演題登録完了が報告された。研修セミナーのテーマ（大学間連携や国際共同研究）および開催形式について検討し、会員校対象の国際交流実態調査（アンケート）の実施計画を協議した。

【第 3 回委員会】

日時：2025 年 8 月 1 日 16 時 30 分～18 時（Zoom 開催）

内容：理事会報告に基づき、会員校アンケート調査の実施は見送ることが決定した。研修セミナーの構成を「大学間の連携による国際交流」に焦点化したパネルディスカッション形式とする方向で調整した。また、EAFONS の運営委員会への参画状況が共有された。

【第 4 回委員会】

日時：2025 年 9 月 10 日 17 時 30 分～19 時（Zoom 開催）

内容：研修セミナーの具体的なプログラム案（QS ランキング、EAFONS 活動報告、大学間連携の事例紹介等）が提示された。セミナーのテーマ設定や人選について、国際交流推進委員会としての独自性を明確にするための再検討を行った。

【第5回委員会】

日時：2025年10月22日 17時30分～18時45分（Zoom開催）

内容：JANS 交流集会でのワールドカフェ形式のグループディスカッション運用や役割分担を確認した。研修セミナーについては、登壇者（井川由貴氏）の講演時間やパネルディスカッションのテーマを整理した。

【第6回委員会】

日時：2025年11月11日 18時～19時38分（Zoom開催）

内容：JANS 交流集会の発表スライドおよび当日配布するポスター・チラシ案の最終確認を行った。研修セミナーの案内（ポスター）にオンデマンド配信の旨を記載することや、事前質問の受付について検討した。

【第7回委員会】

日時：2026年1月20日 19時～20時30分（Zoom開催）

内容：12月に開催された JANS 交流集会の振り返りを行い、高い満足度が得られたことが報告された。研修セミナーの各講師の講演内容を確認し、大学間連携のプロセスや「スモールステップとしての工夫」を強調する構成への修正を協議した。

【第8回委員会】

日時：2026年2月4日 18時30分～19時30分（Zoom開催）

内容：2月21日開催の研修セミナーに向け、最終的な講演スライドと当日のスケジュールを確定させた。また、次年度（2026年度）は EAFONS を中心とした活動方針となることが説明された。

2) EAFONS の EC Meeting への参加と連携促進

2026年2月27日-28日の EAFONS2026（シンガポール大会）の会期中に開催され、参加者1,731名のうち、日本は771名（44.5%）が参加した。本委員会からは、EAFONS EC の Chair である池田委員と EC メンバーの福井委員長、EC 事務局の寺本委員が参加した。東アジア地域の看護系大学間協働のための活動方法や新たな国々の受け入れ等、運営課題の検討が行われた。また、国際共同研究（8ヶ国）として準備を進めている博士課程の教育に関する実態調査について協議した。次回の EAFONS 学術集会は、2027年2月にタイで開催される予定である。

3) 看護高等教育における国際活動・国際交流の積極的な推進

本委員会主催セミナー「『つながり』で国際交流を育てる：連携で広がる教育・研究フィールド作りの How to」を2026年2月21日（土）に Zoom にて開催した。詳細は、実施報告書（5. 資料参照）に記載した。

4. 今後の課題

今年度のセミナーは、「『つながり』で国際交流を育てる：連携で広がる教育・研究フィールド作りの How to」をテーマに開催し、大学間連携による国際交流の文化醸成や共同研究・教育フィールド構築の具体的なプロセス（MOU 締結の工夫やスモールステップでの連携など）を提示した。参加者からは「他大学の具体的な事例を知ること、自学でも取り組めるイメージが持てた」「学内のリソースが限られていても、他大学との連携で可能性が広がることが理解できた」など肯定的な評価が得られ、70名を超える教員が参加する成果を収めた。

次年度は、これまでのセミナーで得られた知見やネットワークを基盤としつつ、本委員会の活動を EAFONS 中心とした活動へとシフトさせていく。EAFONS の運営委員会への参画や会員校への情報提供

を通じ、学術的な国際連携のあり方を慎重に検討しながら、日本の看護学教育・研究の国際的な発展と発信力の強化に向けて、着実に取り組んでいく予定である。

5. 資料

1) 2025 年度 JANPU 国際交流推進委員会主催セミナー実施報告書

<https://www.janpu.or.jp/wp/wp-content/uploads/2026/03/houkoku20260221kokusai-seminar.pdf>

2025 年度 JANPU 国際交流推進委員会主催セミナー

「つながり」で国際交流を育てる：連携で広がる教育・研究フィールド作りの How to

実施報告書

■開催概要

名称：「つながり」で国際交流を育てる：連携で広がる教育・研究フィールド作りの How to

日時：2026 年 2 月 21 日（土）14:00～16:00

開催方法：Zoom ウェビナー

参加者：JANPU 会員校に所属する教員・事務職員・大学院生 73 名

開催目的：本セミナーでは、自大学だけでは国際交流に関するリソースが限られている状況において、国際交流活性化を目指して取り組んでいる具体的な活動事例を紹介する。その上で国際交流における教育活動や国際共同研究の推進に向け、どのように「つながり」を構築し、発展させていけばよいかのヒントを得ることを目的として開催した。

実施内容：以下の通り、情報提供および2部構成で実施した。

情報提供（14:00～14:30）

- ・世界における日本の看護系大学の位置づけ、本委員会の活動目標
- ・EAFONS の活動について

第1部 講演（14:30～15:20）

1. 国際交流を大学の文化に — “共育”がひらく世界への窓 —
2. 国内大学連携を通じた看護大学間コンソーシアム形成に向けて
— 教育・研究的な取り組みの展望 —

第2部 パネルディスカッション&参加者との質疑応答（15:25～15:55）

■開催総括

今年度は、Zoom ウェビナー形式によりセミナーを開催し、講演およびパネルディスカッションを通して、大学間連携を基盤とした国際交流の教育・研究への展開について情報共有と意見交換を行った。講演では、各大学の教育実践例や組織的推進体制、国内大学間連携の取り組みなど具体的事例が紹介され、参加者からは他大学の現状や工夫を知ることができ、自大学での展開を検討する上で参考になったとの意見が多く聞かれた。パネルディスカッションでは、外部資金の獲得方法や資金運用、国際共同研究や MOU 締結の進め方など実務的課題に関する関心が高く、持続可能な国際交流に向けた課題と方策が共有された。

■アンケート結果(44名回答、回答率60%)

1. 属性

	2025年度 (N=44)		2024年度* (N=35)		2023年度** (N=57)	
	n	%	n	%	n	%
性別						
女性	40	91%	33	94%	53	93%
男性	1	2%	2	6%	1	2%
未回答	3	7%	0	0%	3	5%
年齢						
20歳代以下	1	2%	0	0%	2	4%
30歳代	1	2%	2	6%	6	11%
40歳代	11	25%	16	46%	11	19%
50歳代	14	32%	12	34%	26	46%
60歳代以上	12	28%	5	14%	8	14%
未回答	5	11%	0	0%	4	7%
勤務先						
国立大学・省庁大学校	5	11%	5	14%	11	19%
公立大学	16	36%	14	40%	15	26%
私立大学	23	53%	16	46%	31	54%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
職位・身分						
学長・学部長・学科長・専攻長	4	9%	3	9%	8	14%
上記以外の教授	12	27%	8	23%	15	26%
准教授・講師	15	35%	16	46%	20	35%
助教・助手	11	25%	8	23%	10	18%
大学院生	1	2%	—	—	2	4%
学部生	—	—	—	—	1	2%
学務部職員	1	2%	—	—	1	2%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
勤務・在学している地域						
北海道・東北	4	9%	3	9%	3	5%
関東	13	30%	9	26%	20	35%
中部	10	23%	6	17%	12	21%
関西・近畿	9	20%	8	23%	13	23%
中国・四国	3	7%	4	11%	3	5%
九州・沖縄	5	11%	5	14%	6	11%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

* 2024年度のアンケート回答結果:2025年3月8日(土)13:00~15:30 Zoom ミーティングにて開催
「共に考えよう、国際交流の企画から運用、そして発展」

** 2023年度のアンケート回答結果:2024年3月2日(土)13:00~15:10 Zoom ウェビナーにて開催
「国際交流の再開と更なる発展:コロナ禍で継続して取り組んだ4大学の経験から」

■アンケート結果(つづき)

2. セミナー開催時期

	2025年度 (N=44)		2024年度* (N=35)		2023年度** (N=57)	
	n	%	n	%	n	%
開催時期	(2月開催について)		(3月開催について)		(3月開催について)	
とても良かった	27	61%	20	57%	34	60%
まあまあ良かった	17	39%	14	40%	21	37%
あまり良くなかった	0	0%	1	3%	2	4%
まったく良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
休日の開催						
とても良かった	16	36%	18	52%	24	42%
まあまあ良かった	20	46%	11	31%	27	47%
あまり良くなかった	8	18%	5	14%	6	11%
まったく良くなかった	0	0%	1	3%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
午後の開催						
とても良かった	17	39%	23	65%	32	56%
まあまあ良かった	22	50%	10	29%	23	40%
あまり良くなかった	5	11%	2	6%	2	4%
まったく良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
開催時間の長さ	(2時間)		(2時間 30分)		(2時間 10分)	
とても良かった	31	71%	24	69%	24	42%
まあまあ良かった	9	20%	11	31%	28	49%
あまり良くなかった	4	9%	0	0%	5	9%
まったく良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%
オンラインでの開催						
とても良かった	40	91%	30	86%	52	91%
まあまあ良かった	4	9%	5	14%	5	9%
あまり良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
まったく良くなかった	0	0%	0	0%	0	0%
未回答	0	0%	0	0%	0	0%

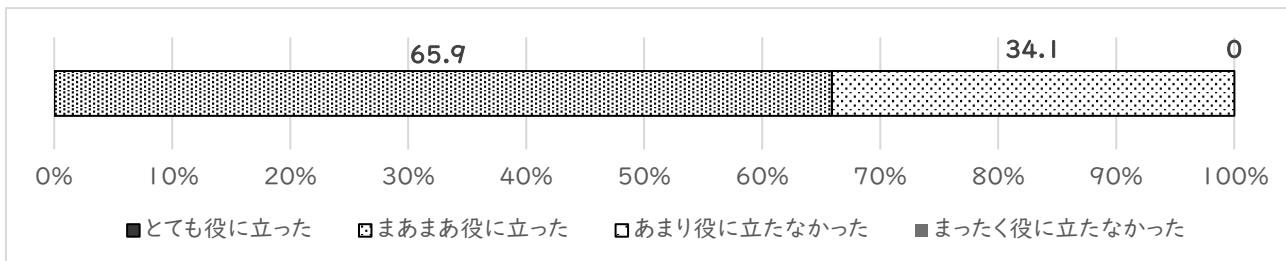
* 2024年度のアンケート回答結果:2025年3月8日(土)13:00~15:30 Zoom ミーティングにて開催
「共に考えよう、国際交流の企画から運用、そして発展」

** 2023年度のアンケート回答結果:2024年3月2日(土)13:00~15:10 Zoom ウェビナーにて開催
「国際交流の再開と更なる発展:コロナ禍で継続して取り組んだ4大学の経験から」
2024・2025年度:開催時間の長さの選択肢が異なるが、2023年度に合わせて表示

■アンケート結果(つづき)

3. セミナーの内容に対する評価:第1部

Q3-1. 第1部(講演)の内容は役に立ちましたか。



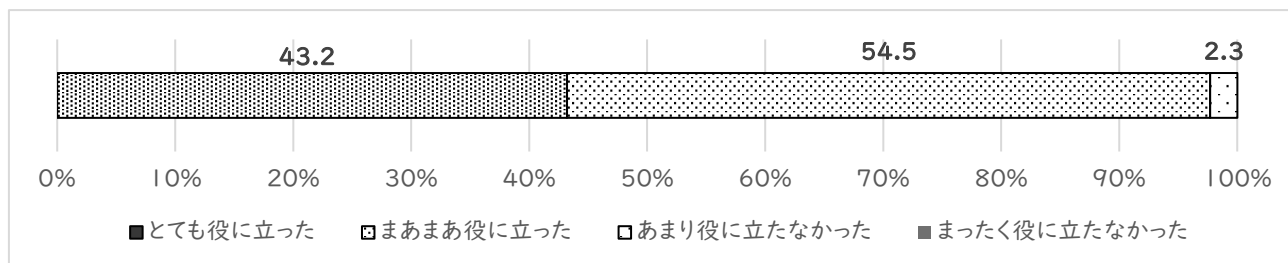
Q3-2. 第1部(講演)について、特に役に立ったと感じた点を挙げてください。

カテゴリ	回答内容の一部 (n=25)
教育実践・プログラム内容の具体例(7件)	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学で国際看護教育をどのように工夫しているのか、事例を紹介していただき、自分の大学でできることの着想が広がった。 ・各大学の準備から実装までを丁寧に説明いただき、参考にしようと思った。 ・各先生方の継続的な活動や現状を知ることができた。 ・発表していただいた大学の国際看護の取り組みを具体的に知ることができました。
大学・組織としての運営・推進方法(6件)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流の活動を、看護教育や研究など次につなげることや、他の教員・多領域の先生方との協力も意識しながら、取り組んでいくことが大切だということ ・組織としての国際交流の進め方について ・実際にどのように学内で進めておられるか。
事例からの学び(山梨県立大学を中心に)(4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県立大学の事例で継続して取り組むための実際が、本学での国際看護、国際交流の課題に役立ちました。考え方や教員を巻き込む、「共育」という考え方はマンパワーが限られている中で、本学でも非常に重要と考えており多くのヒントをいただいた。 ・山梨県立大学の先生のご講演で、国際看護を伝える意義についてとても感銘を受けました。
教育・実務への示唆(4件)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際看護の専門性がない場合の拡大について ・具体的な活動の進め方、特にきっかけの作り方や資金について
研究・グローバル展開の視点(2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界における日本看護系大学の位置づけと EAFONS の活動について、看護研究のグローバル化の必要性について実感できた。
国際交流・ネットワーク形成(2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際看護のプログラムを運営する苦勞や工夫、どのようなチャンスがあって海外とのネットワークが作られるのかなど、具体的なお話が聞けたこと

■アンケート結果(つづき)

4. セミナーの内容に対する評価:第2部

Q4-1. 第2部(パネルディスカッション&参加者との質疑応答)の内容は役に立ちましたか。



Q4-2. 第2部(パネルディスカッション&参加者との質疑応答)で、特に役に立ったと思った事柄を挙げてください。

カテゴリ	回答内容の一部 (n=21)
資金確保や運営基盤に関する具体的な情報(10件)	<ul style="list-style-type: none"> ・使えそうなファンドの一覧 ・助成の種類や、採択率なども示していただいたところ ・ヒト、カネ、モノの調達に関する工夫を知ることができた。 ・学生の国際交流や共同研究の場合でも費用の面が課題になるので、情報提供いただき参考になりました。 ・予算や教員の協力をどのように得るかが難しい課題と思っており、参考になりました。 ・資金の問題は、どの大学でも工夫しながら、取り組んでいることがわかりました。
国際共同研究や持続的発展の視点(5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・MOU や国際共同研究についての知識を得られた。自身にとって、国際共同研究は身近ではなく実感があまりないというのが正直なところですが、必要性を感じていて、将来的には実施していきたいので、今始められることから始めたい。 ・持続可能な国際交流という目的に沿った活動について自分なりに何ができるかという考えをもつことができた。 ・修士を出たばかりで今後の研究をどのように進めていったらよいか、迷いがあったが、ノウハウを知っている研究者と一緒に研究をしていくことが(研究費獲得の)近道であると力強くおっしゃっていただいたので、それを目指していきたいと感じた。
大学間ネットワークや連携の視点(3件)	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは近くの大学で国際交流を行っている大学の先生や学生の話を知りたい。 ・2つの大学の具体的な取り組みについて、大変参考になった。大学間でのつながりの必要性を感じている。
国際交流の実務上の課題共有(2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・交流先の選び方、時差や文化についてあまり問題にはならないことを再確認出来た。

■アンケート結果(つづき)

5. 連携による教育・研究フィールドの構築

Q5. 今回のセミナーを通して、あなたやあなたの大学では、連携によって教育・研究フィールドを構築するために、明日からどのような取り組みができると思いますか。具体的な目標や方策を、1 つ以上挙げてください。

カテゴリ	回答内容の一部 (n=25)
連携・ネットワークの構築 (12 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・大学所在の自治体や近隣自治体との協働、近隣大学と連携 NPO との連携 ・現在連携校となっている大学との共同研究を 1 つでも実現する。 ・MOU 提携校との連携を少しずつ進めていけるよう、国際交流委員会で年度ごとの目標をかかげ、検討していく。 ・国際課、他学科との協働 ・研究室単位での交流 ・国際学会に参加して他校との交流を持つ事が大切だと思いました。 ・大学内の教員と、国際交流活動や研究について、話をする事
教育プログラムの改善・発展 (4 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際看護の内容検討に活かしたいです。 ・(私に権限はありませんが) 授業に海外の研究者をオンラインで招く、オンライン講義を行うなどは可能であると思います。 ・国際交流事業が行事の一環として行われている現状から、学部生の言語、文化の交流から、研究、大学院への繋がりへと発展できるように、プログラムの振り返りをしていく。
情報収集・学習 (3 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは近くの大学で国際交流を行っている大学をリサーチして、どのように進めているかを情報収集するところから始めたい。 ・大学レベルでは難しいが、個人的には国際看護教育に関する研究がどのようになされているか、文献を読みたいと思っている。
外部資金の獲得・財政基盤整備 (2 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・外部資金の申請を考えたい ・小さな交流の実績を蓄積して協働に向けて外部資金の獲得を目指すとともに、交流の価値を法人にも訴え、支援を求める。
体制づくりの話し合い (1 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の共有と時間の確保、まずは話し合うことでしょうか
研究成果発信 (1 件)	<ul style="list-style-type: none"> ・今行っている海外研修について学会発表と論文化する。

■アンケート結果(つづき)

6. セミナーの感想と意見

Q6. 今回のセミナーについてのご意見、ご感想などをご記入ください。

カテゴリ	回答内容の一部 (n=18)
他大学の取り組みや具体的事例から学びや示唆を得ることができた(15件)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の国際交流の様子が知ることができとても参考になった。新規開設学部のため、国際交流活動のイメージが作れた。 ・日本の看護系大学の国際看護に対する取り組みの一端を知ることができた。 ・活動内容についてあまり知らなかったため具体的な活動事例を紹介していただき大変学びになりました。
セミナー運営や資料提供に関する意見・要望(2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・後日、動画配信される際に可能な範囲でよいので、第1部で講演された先生方のご紹介していただいた資料提供先や連絡先などのスライドは掲載していただけると幸いです。

7. 今後希望する企画

Q7. 国際交流の活性化に向けて、今後開催してほしい企画や企画時期についてご意見をご記入ください。

カテゴリ	回答内容の一部 (n=8)
国際交流の具体的実践や成果事例の共有(5件)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流推進のための支援だけでなく、すでに共同研究をまとめられた先生からの発表が聞けるとよい。 ・国際交流を教育、研究、国際貢献へと広げていく方策について ・今回の1部の講演のように、具体的な大学の取り組みはとても参考になりますので、企画していただきたいと思います。 ・MOU後の活動状況とその効果について ・海外研修をやりっぱなしで終わらせない工夫…を伝授していただけるとありがたいです。
ネットワーク形成・交流機会の創出(2件)	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク作り ・実際に国際交流が出来る場を設けていただけると、いろいろと発想ができそうかなと思いました。
国際交流を推進するための能力向上・支援(1件)	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流にかかわる教員、研究者の英語力向上のための研修プログラム